

科目名	知覚・認知心理学1			ナンバリング	PSY222	授業形態	講義
対象学年	1年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	大原貴弘	担当教員					

授業の概要	<p>本講義では、知覚・認知心理学に関する基礎的知識を修得すること、その知識や考え方を日常生活のなかで応用できるようになることを目的とする。 特に、見る(知覚)、分かる(認知)、覚える・思い出す(記憶)、考える(思考)、決める(意思決定)などといった心の基礎的な働きに焦点を当てる。これらの知覚・認知機能に関する心理学実験を実際に体験したり、これらの機能に問題を抱えるさまざまな障害の症例に触れながら学んでゆく。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知覚・認知心理学の体系的知識について説明できる。</li> <li>2. 知覚・認知心理学に関する知見を、日常生活と関連づけられる。</li> <li>3. 知覚・認知心理学に基づいて、適切な意思決定・選択ができる。</li> </ol>
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<p>板書や授業内容を書き取っておいて、講義内で提示される用語の意味を説明できるようにする。 さらに、キーワード同士の関係性を考えて現象を説明できるようにする。 また、小テスト提出後に配付される解答例を通して、授業内容の復習をする。</p>
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	○ 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知覚・注意について、指定した用語をすべて用いて、指定した分量で説明できる。</li> <li>2. 認知・記憶について、指定した用語をすべて用いて、指定した分量で説明できる。</li> <li>3. 思考・意思決定について、指定した用語をすべて用いて、指定した分量で説明できる。</li> <li>4. 毎回の授業において、授業内容に対する疑問・感想などを述べるができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知覚・注意について、指定した用語を適切に用いて、適切な論理構造で説明できる。</li> <li>2. 認知・記憶について、指定した用語を適切に用いて、適切な論理構造で説明できる。</li> <li>3. 思考・意思決定について、指定した用語を適切に用いて、適切な論理構造で説明できる。</li> <li>4. 毎回の授業において、授業内容に対する疑問・感想を多面的な視点から述べることができる。</li> </ol>

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		80%
宿題・授業外レポート	○	○			○		10%
授業態度・授業への参加			○	○			10%

課題、評価のフィードバック	毎回、小テストを課すが、その解答提出時に、解答例を配付する。
---------------	--------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション	授業の進め方、授業内容と進行計画、知覚・認知心理学とは	
	第2回	視知覚の特性	盲点と充填、知覚の体制化、図地の分化、知覚的群化、知覚の恒常性、奥行き知覚	
	第3回	身体感覚・感覚間相互作用	ベンフィールドの身体地図、ラバーハンド錯覚、体外離脱現象、マガーク効果	
	第4回	パターン認知とその障害	失認、ボトムアップ処理、トップダウン処理、スキーマ	
	第5回	顔の認知とその障害	相貌失認、サッチャー錯視、倒立効果、シミュラクラ現象、カプグラ妄想	
	第6回	顔の魅力	潜在的な印象形成、吊り橋実験、単純接触効果、親近性・新奇性	
	第7回	選択的注意	変化の見落とし、カクテルパーティ効果、処理資源、自動的処理、ネガティブバイアス	
	第8回	記憶の種類とその障害	前向健忘、宣言的記憶(エピソード記憶、意味記憶)、手続き記憶、海馬	
	第9回	記憶の保持と忘却	感覚記憶、短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリ、忘却、干渉、サヴァン症候群	
	第10回	記憶の促進と変容	記憶のネットワーク構造、プライミング、精緻化、文脈一致効果、分散学習、偽りの記憶	
	第11回	睡眠と認知	サーカディアンリズム、睡眠周期、睡眠が心身にもたらす効果	
	第12回	時間知覚	物理時間、体内時間、心理時間、感情の影響、新陳代謝の影響、時間評価	
	第13回	思考と認知バイアス	確証バイアス、後知恵バイアス、利用可能性バイアス、連言錯誤、アンカリング	
	第14回	選択と意思決定	行動経済学、双曲割引、妥協効果、後悔	
	第15回	言語と共感覚	失語、失読・失書、共感覚	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		1. 授業開始時に、小テストの問題と用語を提示する。 2. 授業終了後、解答時間を設け、小テストに解答してもらう。 3. 小テストが提出された後、解答例を配付する。		
授業外学習の指示		1. あらかじめ、授業内容について調べておくこと。 2. 小テストの提出後、解答例を通して、自分の説明の不備や不明な点について確認し、次回の小テストの参考にすること。 (授業外学習時間: 毎週 120 分)		

教科書	毎回配布する資料に従って、授業を進めてゆく。
参考書	適宜、授業内で紹介する。
参考URLなど	特になし。
その他	